



SPECIAL INTERVIEW



トレンドに左右されず、日々に寄り添う
「nusignらしさ」を目指したものづくり

多くの人に長く愛される
♪ふつう♪を生むために

思考や作業を静かに支える創造性や、心をときめかせる要素が散りばめられている。

ブランドのアイデンティティは、緻密なりサーチと異なる評価軸を有する日中韓チームの協働によって育まれてきた。「デザイン」の9割はリサーチにある」という梅澤さんの言葉通り、市場調査はもちろん、実際に消費者の声を拾い上げることがユザーファーストなもののづくりの第一歩。その上で「機能重視」の日本、「ファッション性」を得意とする韓国、「スピード」と差別化」に重きを置く中国という三国のデザイナーたちが集約した「声」を形にしていくなかで、デザイナーが自身の美的価値をもとに提案し、議論を深め、すべてが良いバランスで調和する最適解を手繰り寄せる。時には意見がぶつかるともあるとい

うが、それは必要な衝突。異なる価値観を交錯させる一連のプロセスによって、一過性のトレンドを追うわけでもコストを追求するだけでもない、*“nusign”*らしさが宿っていくのだ。

今回本誌で取り上げたはさみと定規、2種のクリップボードはまさにその象徴といえる。「人々がはさみに求める要素とは？」「定規を持ち上げづらいのは当たり前？」——そんなユーザーの小さな悩みをデザイナーの力で美しく昇華することで、世代やシーンを超えて長く愛される文具が生まれた。「人々の毎日をそっと支えられるような、派手でなくても“なんかいい”と思えるものを作ってきた」とい。梅澤さんの言葉からは文具が秘める無限の可能性と、我々の生活に寄り添い続ける *“nusign”* の未来が見えた。

デザインチームが手がけた 手持ちと卓上の“二刀流”

裏面の穴に指をかけて引き起こせばスタンド仕様に早変わり。軽い力で展開・収納でき、絶妙な重心バランスで安定性も抜群だ。

デザインチームが手がけた 手持ちと卓上の“二刀流”

クリップボード：約225W×315Hmm・
税込1,320円

ホワイト

かけて引き起こせ
に早変わり。軽い
で、絶妙な重心
生も抜群だ。

ブラック



日本チーム主導で開発された、はさみとアルミ製
定規。ここに写る、いくつものラフスケッチや試
作品はごく一部。「派手でなくとも美しく、本当
に使いやすいもの」を問い続けるデザイン哲学と、
いっさいの妥協を許さない開発工程がうかがえる。

ニューサイン

nusign

アジア最大級の文具メーカー・deliのサブブランド、nusign。今夏、「クラシックシリーズ」に機能的で美しい新製品が加わった。同ブランドが追求めるクリエイティブやOEM生産で培われた高い技術力、作り手たちの協働、開発秘話までたっぷりと紹介しよう。

「シンプル」に宿るひとさじの個性
クラシックシリーズの新製品

リサーチから生まれた“目から鱗”な工夫

アルミ製定規

ユーザーリサーチで得た「力強く押さえるとズレる」
「机から持ち上げにくい」という悩みを起点に開発。
片側に丸みや段差を付ける案もあったが、使いやすい
両側目盛りにするため現在の断面形状に。既存色
(シルバー) より明るく、幅広い年代で使いやすい
3色が追加された。グッドデザイン賞2025を受賞。

定規：約24W×158Hmm・税込660円



開発当初のリブの本数は5本。リブの本数が多いと、力が分散して滑りやすくなり、重量も重くなる。最適な本数を検証し、3本に決定した。

シルバー
オレンジ
グリーン

表面はリッジ（山の尾根）形状。端を押さえると浮き上がり、机上からスムーズに持ち上げられる。中央の窪みは指がフィットし押さえやすい。



オレンジ

試作を重ねて辿り着いた「究極の普遍」

省力ハサミ

「はさみに求めるのは“ちゃんと切れること”」という原点に立ち返って開発された1丁。ハンドルは曲面のみで構成されエッジがなく、開閉を続けても手が痛くなりづらい。ブレードの加工や断面形状にこだわり、トライアンドエラーを繰り返して完成した。

はさみ：全長約170mm・重量約60g・税込1,100円



刃に高硬度チタンコーティングを施し、摩耗を防止。粘着テープを切ってもベタつかず、なめらかな切れ味を長く維持できる。



刃同士が「面」ではなく「点」で接触する、3D刃線設計を採用。抵抗を減らすことで軽い力でも対象物を捉えやすい。紙はもちろん、柔らかな布もサクサク裁断できるほどの切れ味。

ハンドルのラフスケッチ。赤く強調されているのは、はさみと手が触れる部分だ。当初はエッジがあるデザインも考えられたが、手に負担がかからぬよう触れる部分すべてを曲線に。微調整の跡が残る。

刃の断面図

3D 刃線設計

他社の刃